卒業おめでとう！ 卒業生へ 贈る言葉

卒業おめでとうございます。これから皆さんはそれぞれの道に進んでいきます。たくさん悩み選択したと思いますが、それが正しいものだったのかは選んだ道でどのように過ごすのかで決まると思っています。いつか自分の人生を振り返ったとき、選択してきたものすべてが『正解』だったと思えるような自分だけの人生をつくってください。

301担任　荒川 諒太

卒業おめでとう！ 302担任として過ごしたこの1年間、またこの学年の皆さんや保護者の方と出会えたこの3年間は今年度で定年を迎える私にとって思い出深い日々となりました。

これから皆さんは新しいステージに足を踏み入れることになります。今の世の中は気候変動など待ったなしの問題が山積しています。一人の力は小さいけれどそれを合わせれば大きな力になります。未来をどんな世の中にしていくのか、同朋高校で学んだことや培った力を糧に、自分の頭で考えて判断し行動できる大人になってください。

新しいあなたの一歩に幸あれ。

302担任　柘植 さとみ

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

楽しいことだけでなく、悲しいこと、辛いこともたくさんあった3年間だったことでしょう。

その日々を乗り越えてきた皆さんは、きっと、大きく成長したことでしょう。

皆さんに生徒手帳を渡した3年前の入学式が、つい昨日のことのように思い出されます。

皆さんと過ごしたこの3年間で、社会人として、教師として、ついでに体もさらに大きく、成長させてもらいました。

心から、ありがとう。

303担任　芳賀 健太郎

密を制限されたこの3年間は、あなたたちにとって多くの意味で密であるべきはずの高校生活と被っていました。寂しく思い、悔しくも思ったと思います。

でも、「素敵」なものすべては考え方に住んでいるということを忘れないでください。

私は、あなたたちに出会えて幸せでした。

3年間、ありがとう。

304担任　平岩 亜扇

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

突然ですが皆さん、次の文章が読めますか。

All the world's a stage,
And all the men and women merely players,
They have their exits and entrances,
And one man in his time plays many parts,
His acts being seven ages.

これは、イギリス文学の巨匠William Shakespeareの描いた喜劇『As You Like It』の中に登場する、人生を劇場のステージに見立てた有名なセリフの一節です。皆さんは、この「高校生活」というステージにおいて、どのような「人生（ものがたり）」を演じたのでしょうか。きっと数えきれないほど喜び、笑い、怒り、泣いたことでしょう。その一つひとつのシーンがやり直しのきかないまさに『The First Take』です。そして、皆さんの大切な財産でもあります。この3年間を大切に、一人ひとりの新たな「人生（ものがたり）」をスタートしましょう。皆さんの人生の「正解」は、一つじゃないんですから!!

305担任　水野 孝

卒業おめでとうございます。そして、3年間ありがとうございました。

皆さんと関わる中で、たくさん悩みました。30歳になりましたが、いつも悩むし、悩んだところで分からないことばかりです。どうやら世界はとても広いようです。

そんな世界ですてきな人や景色と出会い、自分らしく生きてください。そして自分らしく生きてる他の人も受け入れ、すてきな社会をつくりましょう。

僕もまだまだこれからです。同朋として、これからも。

306担任　名知 佑基

自分で決めて
自分が進む

307担任　落合 高基

卒業おめでとうございます。

皆さんはどのような高校生活を送りましたか？

この3年間は制限されることも多く、思い通りにならなかったこともたくさんあったと思います。

一方で楽しかったこと、一生懸命になって頑張ったこともあることでしょう。

その一つひとつの経験は皆さんの大切な宝物です。

何年か後にふと振り返った時に同朋高校で良かったと思えるような時間が過ごせていたら嬉しいです。

この学校で出会った仲間、共に過ごした日々を糧にそれぞれの進路で活躍していってください。応援しています!

308担任　上田 真穂

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

振り返ってみると、入学式が終わってからすぐ休校が決まり、分散登校から高校生活が始まりましたね。高校生活はどうでしたか？ 成長したなと感じることも、思うようにいかなかったこともいろいろあったと思います。どんな経験にも意味があります。同朋高校で得た経験を糧に、次のステージで力を発揮してくださいね。

309担任　磯村 美貴

「今日の自分が、昨日の自分より良くなること」

24時間を大切に過ごしてください。

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

310担任　丸山 栄治

卒業おめでとうございます！

111担任、211担任、311担任として過ごしたコロナ禍の3年間、目をつぶればいろいろな思い出がよみがえってきます。皆さんはどうですか？

これから皆さんは新しい世界に一歩を踏み入れることになります。今の世界は、コロナ禍・戦争・独裁政治・不況物価高・気候変動などさまざまな問題が累積しています。未来をどう乗り越えていくか…、いままでに学んだことをもとに、自分で考えて行動できる主権者になってください。

皆さんの将来に期待します。

311担任　宮城 道良

卒業おめでとうございます。

これからの人生も明るく元気に。

自分の言動に責任を持って、周囲の人に幸せと笑顔を届けられる人になってください。

今後の活躍を期待しています。

312担任　本田 裕規

卒業おめでとう。
高校3年間でどんな経験をし、何を学び、どう成長しましたか？
これから就職をして社会にでる人、進学をして学生を続ける人、進路はさまざまかと思います。いろいろな困難に出くわすと思います。諦めずに立ち向かってください。誰かを助けることもあれば、誰かが助けてくれることもあります。

18歳になり成人を迎えることでしょう。皆さんはどんな大人になりたいですか？

私は皆さんに
　周囲の人たちから「可愛がられ」、「応援される」人に。
また、
　周囲の人たちに「感謝」と「謝罪」ができる人に。
　なってほしいと思います。

私も皆さんとの3年間のおかげで大きく成長することが出来ました。
「ありがとう」

313担任　大島 恭郎

来年から新しい日本の紙幣が流通します。1万円札の肖像画は、福沢諭吉から渋沢栄一へと変わります。その渋沢栄一の言葉をはなむけに贈ります。

人はすべて自主独立すべきものである
自立の精神は人への思いやりと共に
人生の根本を成すものである

最近、「自分が自分が…」と行動する人が目立つようになりました。そうではなく、大切にすべきは「思いやりの心」「おかげさまの心」ではないでしょうか？

あなたのおかげで私がいる。1度しかない人生を、自立した大人として、しっかりとともに歩んでいきましょう。

314担任　平野 裕騎

たくさんの笑顔をありがとう

今まで何度か担任をしてきましたが、一番成長をしたなと感じる19人でした。

成長をするということは、人の意見を聞いて受け入れることができるからだと思います。

私が本当に伝えたい時、いつも真剣にきいてくれた姿勢に感謝しかありません。

みんなと一緒に過ごした3年間、本当に幸せで、笑顔でいられました。ありがとう。

315担任　宇佐美 亜季

Schedule［行事予定］

2月	18日	土	卒業式
	20日	月	見真の日
	22日	水	木曜時間割
	22～28日	水～火	2年生音楽科学年末考査
	27日～3月3日	月～金	学年末考査
3月	4～10日	土～金	2年生音楽科修学旅行
	7日	火	2年生「食育」講演
	9日	木	2年生学年行事
	10日	金	1年生自主活動日
	10・11日	金・土	2年生MP救急法
	12・13日	日・月	2年生MP幼児安全法
	13日	月	2年生自主活動日
	14日	火	進級判定発表、教科書渡し
			在校生健康診断
	17～19日	金～日	1生年MP救急法
	20日	月	修了式
	25・26日	土・日	春のリーダーキャンプ

2022年度 私学助成拡充運動へのご協力ありがとうございました

保護者の皆様には、平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。また、私学助成拡充運動にご尽力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。国に対する助成金署名は皆様のご協力により、本校で約12万筆を集約し、今後国会に提出させていただきます。また、県に対する代表請願署名は12月20日の県議会で採択され、大村知事へ予算要望を行いました。次年度の授業料助成額については、2月下旬に決定される見通しです。

長年の私学助成拡充運動が、保護者負担の軽減、教育条件の充実、財政の安定化につながっています。今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

同朋高等学校助成金推進協議会

同朋和敬
2
学校通信
Doho High School Community Press
Vol.228 16 FEB 2023
同朋高等学校　学校通信編集委員会　宇佐美・石塚
名古屋市中村区稲葉地町7の1　TEL 052-411-1159

同朋和敬

待ちに待った！
修学旅行特集

2
Vol.228
学校通信
Doho High School Community Press

※撮影の為、マスクを外している写真もあります。

2年生普通科・商業科の修学旅行が、3年生音楽科の1年越しの修学旅行が、12月に行われた。現地を実際に訪れることで得られる学びの大きさは計り知れない。沖縄の海の青さ、灯りを消した時のガマの中の暗闇、頭上を飛んでいく戦闘機の爆音、「行ってらっしゃい」と送り出してくれた伊江島にできた新しい家族…。ヨーロッパの空気、四苦八苦しながら食べ物を注文した経験そのもの…。旅に行くこと自体が旅の目的なのである。

早いものでもう卒業式の季節。同朋高校で過ごした一瞬一瞬のすべてが卒業生の人生の糧となる。新たな「はじまり」を迎えた卒業生の未来が喜びに満ちたものでありますように。

同朋高等学校長　滝　敏行

2022 学び・体験・思い出いっぱい

修学旅行 in Okinawa

修学旅行を振り返って

普通科・商業科の生徒は３団に分かれて沖縄修学旅行に行きました。この数年間、新型コロナウイルス感染症対策で各行事が中止や縮小されている中、この３泊４日の修学旅行は２年生にとって特別なものでした。

初日は海から始まる平和学習をコンセプトに、沖縄戦やその後の沖縄の様子などを学びました。平和ネットワークの方にガイドをしていただき、テーマに沿ってそれぞれの視点から沖縄の歴史を振り返りました。各コースにある記念碑や洞窟などで平和ガイドさんのもとに集まり、そこでのできごとやそのときの人々の想いなどを学ぶことができました。

２日目のコース別研修では、生徒たちが作った、沖縄の文化や自然を体験できるコース５つに分かれて体験しました。

海を体験するカヤックやシュノーケリング、絶景が見られるジップライン、沖縄を感じられる沖縄ワールド、そして美ら海水族館など、沖縄の自然や魅力を満喫していました。

2日目の夕方から伊江島に渡り、島の子として一泊させてもらいました。おじい、おばあ、おとう、おかあの優しさに触れながら、沖縄料理を食べたり、サーターアンダーギーを作ったり、島内を巡ったりと、充実した時間となりました。島を出るときは、「いってらっしゃい」「いってきます」と涙ながらのお別れとなりました。

４日目はクラスごとに首里城、国際通りへ行きました。首里城は2019年に正殿が焼失して以降初めて行きましたが、正殿があったころには気付かなかった雄大な門を見ることができたり、城壁から那覇市内を一望したりできました。

また国際通りでは、多くのお土産を抱えて楽しそうに歩く姿が見られました。

この修学旅行を実りあるものにするために、各教科での事前学習や学習・平和・演芸の各委員、クラ連の事前準備など、多くの人の準備や関わりがありました。多くの方のご協力のおかげで心に残る修学旅行が実施できました。ありがとうございました。コロナ禍で不安な中、お子さんを送り出していただいた保護者の方にも心より感謝申し上げます。

２年学年主任　坪内 翼

平和学習について

修学旅行に行くまでの期間、国語・社会・英語の授業で主に「沖縄戦」や、戦後の「基地問題」について事前学習を行ってきました。そして、修学旅行の1日目に平和学習を実施しました。そもそも「平和」とはどういった状態のことなのか。単に「戦争」が行われていなければ「平和」といえるのか。考えれば考えるほど、「平和」を定義・言語化することの難しさを実感したと思います。沖縄では実際にガマに入ったり、資料館での学習、米軍機の爆音を経験したりと、現地でしか学ぶことのできない貴重な体験ができたのではないでしょうか。この経験をもとに、事後学習でも「平和」についてより深く学びを継続していきましょう。

私たちは、なぜここまで平和学習に時間を費やすのか。本校の校訓には「相互和敬」という言葉があります。この言葉にはどういった意味が込められているのでしょうか。また、同朋学園は「共なるいのち」を合言葉に、「他人とのかかわりの中であらゆる差異を認め合い、それぞれの個性が輝くような豊かな関係をつくること」を理念として掲げています。これらの言葉を理解することは容易いように思えます。喜怒哀楽を共有でき、信頼しあえる友達がいることは素敵なことですし、友達は安心を与えてくれるでしょう。しかし一方で、「仲間」をつくり境界線を引くということは、同時に「敵」をつくることにも繋がりかねません。差異を認め、豊かな関係をつくるということは実は難しいことのように思えます。真に他者を尊重し、互いの個性を発揮できるような豊かな社会を築いていく力を育むためには、「安心」という殻から抜けだし、外の世界に目を向けること。社会に関心を持ち、あらゆる視点で事象を捉えて学び続けることが大切なのではないでしょうか。

平和学習担当　一ノ瀬 裕也・丹羽 雄飛・松尾 良亮

修学旅行日記抜粋

1日目

- 本部壕の中はとても暗く地面もジメジメしていて、滑るほどだった。その中で合掌をした。目を閉じて真っ暗になった中で1分間。耳には友達の呼吸してる音と、水が上から滴る音だけ。とても怖かった。戦時中外ではさまざまは大きな音が鳴り響いてる中、お年寄りから幼い子どもまでが避難していたと思うと、胸が痛くなった。
- 戦争で亡くなった人は数ではなく一人ひとりの名前が大事。亡くなった方が一人でもそれを悲しんだりどこかでその死を受け止められない人がいるのは変わらない。だからこそ、平和の礎に行って多くの人の名前が刻まれているのを見てとても悲しくなった。死んだ人はもう一度生き返ることはできないから、このような学習の場で誰かの心の中で生きてもらうことが大事なのかなと思った。
- 沖縄の基地はいろいろな種類があることが分かった。ヘリコプターは実際に近くで飛んでいるのを見て音がすごく大きかったし、住宅や商業施設の上を普通に飛んでいたことも実際に見てみて危険だと思った。最後にガイドさんが言っていた「全部が全部基地は良いか悪いかで考えるのではなく一つひとつ考えてほしい」という言葉を忘れず、これからも考えていきたい。

2日目

- 今日はめちゃくちゃ楽しくて、そしてめちゃくちゃ疲れました！カヤックの時、僕たちは豪風で、景色を見ながら漕ぐ所ではありませんでした。海軍の訓練かのようでした。しかしそんな中着いた島裏はとても綺麗で達成感が凄かったです。途中足がつってしまい、友人が頑張って漕いでくれたのは印象的でした。古宇利島はとにかく綺麗でしたが、太陽が出ていればさらに海を照らし透かしてくれるとなると悔しいなぁとなりました。
- 晴れた沖縄を初めて見ました！すごく海が綺麗で愛知県の海とは大違いすぎてびっくりしました。ジップライン綺麗すぎたし楽しすぎた!! 美ら海水族館もたくさん魚がいて何よりでっかいサメに驚かされました。

3日目

- 昨日おばあに会った時はどんな人だろうと緊張していた。でも今日の帰りには伊江島から離れたくないくらいおばあが好きになったし、伊江島が好きになった。おばあは、限られた時間の中でいろんなところに連れてってくれた。島のほとんどの人が友達で、ご飯もぜーんぶおいしくて、家で育てたバナナもたくさんくれたし、サッカーが大好きでブラジル対クロアチアも一緒に見た！
- おとーにはハイビスカス園を見せてもらったり、新種の花に【朝咲姫（あさひ）】と名前をつけさせてもらった。おかーは一緒に料理を作ったり、伊江島を案内してくれたり、伝説の話を聴かせてくれた。2人はとっても優しくて、別れの時が近づくにつれて涙が出そうになった。「いってらっしゃい」と言われた時には涙が止まらなくて、離れたくないと感じた。最後の最後まで優しく接してくれたおかーとおとーのように私もこれから人に気遣えるように頑張りたいです。

4日目

- 首里城跡では首里城の歴史について知ることができた。火災から既に3年も経っていたことに少し驚いた。国際通りは店員さん全員がものすごく気さくで明るい人が多く、居心地が良かった。
- 旅行者がたくさん来るのは沖縄にいろいろな理由があると感じた。自然や歴史、食べ物さまざまなところに魅力があり、私たちはそれを守っていく・未来に歴史を繋いでいくことが大事だと学んだ。

修学旅行日程

1日目	中部国際空港 ― 那覇空港 ― コース別平和学習 ― ホテル コース1 子どもの沖縄戦　コース2 女子学徒の沖縄戦 コース3 読谷の沖縄戦～戦後　コース4 北谷・嘉手納基地問題 コース5 浦添・宜野湾基地問題
2日目	ホテル ― コース別研修 ― 本部港 ― 伊江島民泊 コース1 自然で遊んじゃおう（ジップライン+美ら海水族館） コース2 水上探検（クリアカヤック+古宇利島） コース3 海の秘宝探検（シュノーケリング+古宇利島） コース4 沖縄だけど沖縄じゃない（沖縄ワールド+アメリカンビレッジ） コース5 沖縄博士（沖縄県立博物館・美術館+美ら海水族館）
3日目	伊江島内研修（民泊毎体験学習） ― 伊江港 ― 本部港 ― ホテル
4日目	ホテル ― 首里城 ― 国際通り ― 那覇空港 ― 中部国際空港

同朋高校 オープン・フォーラム2022について

11月5日(土)に「最幸の人生の見つけ方」をテーマに同朋高校にてオープン・フォーラムを実施しました。

一昨年度はコロナ対策でかたちを変え、昨年度は規模を縮小しての実施でした。3年ぶりに、皆さんで顔をあわせての全体会、分散会を行うことができました。

全体会では、教員によるキャリア教育・インターンシップのレポート、3年生原田さんの「いのちについて」の弁論、1・2年生クラ連からの活動報告がありました。その後分散会に分かれてそれぞれの思いを語っていただきました。保護者にとっても教員にとっても学びの多いフォーラムとすることができました。

参加は保護者32名、生徒11名、教員42名、計85名でした。

以下、感想を紹介します。

- 普段聞くことができない話が聞けました。どんなことが幸せかはひとによってそれぞれで、たくさん触れあって違いを認め合うことで人間が磨かれていくのだと思いました。（保護者）
- 先生は先生なりの、親は親なりの考えがあることをいっぱい知れた。（生徒）
- 多様性と言うことが言われるが、保護者・生徒・教員のさまざまな価値観を共有し合うことが大切だと感じた。（教員）

修学旅行日程

1日目	中部国際空港 ― 羽田空港 ― フランクフルト空港 ― ― ウィーン空港 ― ホテル
2日目	シェーンブルン宮殿、シュテファン大聖堂見学後、ケルントナー通りで班行動 国立オペラ座見学 ― 市庁舎クリスマスマーケット散策
3日目	ベートヴェンミュージアム見学 ― シューベルト生家見学 ― ― ケルントナー通りで班行動 ― ベルヴェデーレ宮殿見学
4日目	アウガルテン宮殿（ウィーン少年合唱団との交流）見学 ― ― ホーフブルグ宮殿見学 ― フォルクスオーパーにてオペラ鑑賞
5日目	ホテル ― ウィーン空港 ― フランクフルト空港 ― 羽田空港 ― ― 名古屋駅

2022

音楽科 修学旅行

in Austria

人権を大切に

315 青木 友伽（大口町立大口中学校出身）

私たちは、修学旅行でオーストリア、ウィーンにあるホーフブルク宮殿へ行きました。

私たちはそこで、第二次世界大戦を表すたくさんの写真や、実際に使われていた道具などをたくさん目の当たりにしました。中でも私が一番衝撃を受けたのは、囚人の服に付けられていた布のバッジです。このバッジには、示される色や形によって、政治犯や障がい者、移民など特別な意味があります。私はその事実を知った時、その人のすべてをバッジだけで表されているような気がして、人間として持つべき人権を否定されているように感じました。しかしそれは絶対にあってはならないことです。

今のオーストリアは、人権を大切にする政策を行っています。しかし、ヒトラーのような独裁者を出さないためには政策だけでなく、世界中の人が人権を大切にしようという考えを持つことが大切だと思いました。

アリガトウ

315 宇田津 璃桜（名古屋市立若水中学校出身）

私たちは修学旅行の自由時間にケルントナー大通りに行きました。

地元で有名なケーキとコーヒーがお美味しいピンクで可愛い「アイーダ」というお店に行きました。

みんなで協力してメニューを翻訳したり、英語で注文をしました。定員さんを呼ぶ時は手を挙げずにアイコンタクトで呼ぶと学習しましたが、全然目が合わなくて視線で気づかせるのは難しいなと思いました。定員さんが優しくて、お会計の時に「アリガトウ」と頑張ってカタコトで言ってくれて嬉しかったです。

ウィーンには有名なモーツァルトのチョコのお店やマンナーというウエハース屋さんなどがあり、海外のお菓子はパッケージがカラフルでかわいくて素敵でした。

次行く時は現地の人とドイツ語でコミュニケーションを取りたいなと思いました。

天使の歌声

315 古川 もあ（稲沢市立次郎丸中学校出身）

私たちはアウガルテン宮殿にウィーン少年合唱団を訪問しました。中に入ると2つの大きな階段とシャンデリアに驚かされました。校長先生の話をボイストレナーの日本人女性が翻訳していただきより理解を深めました。

その後、学校を案内していただき校長先生に質問をする時間を取っていただきました。1問ずつ丁寧にお応えしてくださったのでウィーン少年合唱団のことがより深く分かりました。今もなお歴史を受け繋がれてる素晴らしい学校に納得しました。

最後に、実際の授業を見学しました。歌の先生の指導は言語が違う私たちでも何を伝えてるのかが分かりました。子ども達の練習に励む姿が個性豊かで少年少女の歌声はまさに「天使の歌声」でした。本当に感動して涙が出ました。彼らと音楽を共有できて、音楽は人の心を浄化させ感動を与える贈り物だと感じました。

この経験をいかし、日本に帰ったら彼らの歌声のように感動を与えれる歌を届けられるために練習に励みたいと思いました。

オーストリアの貴族達が夏を過ごした宮殿

315 松本 愛央衣（犬山市立城東中学校出身）

私たちはウィーン到着の1日目にシェーンブルン宮殿を訪れました。この宮殿はハプスブルク家の夏の離宮です。宮殿の外観を見た瞬間、マリア・テレジア・イエローに塗装された壮大な建物に鳥肌が立ちました。

公開されれいる部屋を現地ガイドさんの説明とともに巡り、見たこともない豪華絢爛な装飾にみんな目を輝かせていました。一番印象が強いのは何と言っても「大広間」です。見渡す限り金の装飾や大きなシャンデリア、さらに天井にはマリア・テレジアの栄誉を讃えた大きな絵が描かれていました。そしてもうひとつ私たち音楽科にとって魅力的な部屋が「鏡の間」という部屋です。この部屋はモーツァルトが6歳の時に御前演奏をした部屋です。モーツァルトのような素晴らしい作曲家が実際に演奏した部屋を見学することができてとても誇り高く感じました。

普段できない貴重な経験ができました。オーストリアにまた行く機会があればもう一度訪れてみたいです。

音楽科

第54回 卒業演奏会

集大成のコンサート

私たち音楽科は毎年さまざまな演奏会に出させていただいている。その中でもこの3年間の集大成となる演奏会が卒業演奏会だ。二学期にあった公開実技試験の時にオーディションが行われ、そこで選ばれた選抜メンバーがこの演奏会で演奏をする。オーディションの際には、それぞれコンクールや受験などがあるにも関わらず、今回の卒業演奏会に出ることを目指して、クラス全員がそれぞれ練習に力を注いだ。ライバルでありながらも、悩んでいる時に話を聞いたり、本番前には演奏の聴きあいをしてアドバイスをしあったりなど、みんなで支え合い高め合いながら練習をしてきた。もっと敵対視してもおかしくないのに、全員がお互いのことを想って「蹴落とす」ではなく「高め合う」ことができるこのクラスに自分がいることができて良かったと感じた。

演奏会当日、たくさんのお客さまが私たちの演奏会に足を運んでくださった。自分の出番まで、舞台袖からみんなの演奏を聴いていると、3年間の思い出が湧き上がってきて懐かしい気持ちになった。今回演奏させていただいた、電気文化会館ザ・コンサートホールはすごく響きやすいホールのため、ホールの後ろに響いている自分の音を聴きながら、気持ちよく演奏することができた。また、3年間の努力の成果を示すことができるような演奏をすることができたと思う。1年生の頃から成長した姿を、聴きに来てくださった先生方や家族にみてもらうことができたのではないか。今回の卒業演奏会は、私たちの3年間の集大成となるような演奏会になったのではないだろうか。

315 伊東 紅佳（安城市立篠目中学校出身）

商業科

パーソナルカラー講座

色を通して自分らしさを発見!

春からそれぞれの未来へと旅立つ3年商業科の生徒を対象に、県内外から12名の講師をお招きし、グループに分かれて「パーソナルカラー講座」を行いました。

自分にはどんな色が似あうのだろう? この色は好きだけど、私が身に着けるとどんな印象になるのかな? と興味津々な生徒達。4種類のピンク色の布を顔の下にあて、自分の表情に与える印象の差に驚いていました。はじめは恥ずかしがっていても、周りの友人から「あ! このピンク似合うね!」、「このピンクだと頬が明るくみえるよ! 可愛い!」と声をかけられ、自然と笑みがこぼれていました。

色というキーワードを通じ、自分らしさを表現し、受容することで「自らと向き合う」良い機会になりました。

商業科　城所 幸子

1年生 いのちの授業 『いのち・人権・DV講演』

掖済会助産師　日比野由美さんをお招きし、講演会をいただきました。

【いのちの授業】と題したその講演では、命を扱う現職の助産師の方から現場のリアルな声を聴くことができ、自身の命の尊さや他者の命も同じように尊いものであるという気付きをいただくことができました。

また、自身が生まれてきたことがどれほど奇跡的なことなのか、現在まで成長させてもらった周囲に対する感謝など多岐にわたる視点を伝えていただいたことで、生徒は今後の人生に目を向けるきっかけとなったようです。

大切な機会をいただけたことに感謝し、自身や他者に対し優しくなれるよう願っています。

1年生学年主任　小川 幸子

2年生 キャリア講座 『大学・専門学校模擬授業、就職講座』

10月26日(水)に、進学希望の生徒には大学や専門学校の講師をお招きして模擬授業を受けるキャリア講座が、就職希望の生徒には業種説明会がありました。29の分科会から各々自分の興味のある分野の講座を受けました。

実際に話を聞いたり模擬授業を体験したりことで、進路先の具体的なイメージをつかむことができたようです。「思っていたのと違った」「ちょっと合わなかった」という感想の人もいれば、「面白かった」「なんとなく受けてみたけれど、興味が沸いた」という人もいました。

この経験を踏まえて自分の興味や目標を吟味し、それぞれが望ましい進路を選ぶことを願っています。

2年生学年主任　坪内 翼

3年生 自主活動日 『仲間』

有志で集まった卒実のメンバーで「思い出に残る自主活動日にしよう!」と目標を掲げ始まった自主活動準備。話し合う中で沢山の種目があがり、なかなかまとまらなかったこともあったけど、「全員が楽しめる種目」ということを考え、見ていても盛り上がる障害物リレーや綱引き、全員が参加できる大縄跳びに決めました。

当日は沢山の人の協力もあり、スムーズに進めることができました。皆の視線が中心に集まっていて、全員が参加できているなと感じました。終わった後、周りから「楽しかった」という声を聴くことができて、企画して良かったと思いました。

私は今までさまざまな行事の運営に参加してきましたが、いつも自分ひとりで解決しようとしてつまづいたり、悩んだりしていました。でも今回、周りに手を差し伸べてくれる仲間が沢山いて、皆に支えられ、頼ることの大切さを学びました。

自主活動で学んだことを生かし、参加するすべての人の心に残る卒業式をこのメンバーと一緒に作り上げたいです。

311 小幡 海遥（名古屋市立供米田中学校出身）

報恩講 “共なるいのち”を考える報恩講の式典

11月28日は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人の祥月命日です。親鸞聖人の教えを建学の精神とする本校は、本年度は12月1日に1年生の全生徒が体育館に集い、報恩講の式典を行いました。

報恩講とは、親鸞聖人をはじめ、自分にまでお念仏の教えを伝えてくださった先輩方に思いをいたし、その恩徳に感謝し報いる御仏事です。同時にそれは親鸞聖人の言葉に出遇い、自らの生活を振り返るお勤めでもあります。今年度の報恩講は、各学科の代表生徒による献花、音楽科生徒の「三帰依（パーリ文）」唱和（コロナ禍のため小声での唱和）、その後に真宗大谷派学校連絡会中高部会運営委員であり、養照寺僧侶でもある一柳智史先生に短時間、法話をいただきました。一柳先生より仏教の教えについて丁寧に説明していただき、“ともなるいのち”について考えを深めることができました。「われわれは牛豚鳥と日常的に食べるが、その命を奪う場面に立ち会ったことがあるか」という問いは、多くの高校生の心に残ったようです。

報恩講を通してお念仏の教えに出遇い、自分を見つめ直し、「同朋」という他者と認め合い、共に生きていけるご縁となれば幸いです。

宗教主任　宮城 道良

Club&Award News

生徒の活躍（2022年9月26日～2023年1月22日）

■柔道部

第45回尾張・名古屋・知多新人柔道体重別選手権大会

男子 60kg級	**第3位**	羽渕 豪	（212）	⇒ 県大会出場
女子 52kg級	**第2位**	白根 小雪	（208）	⇒ 県大会出場
70kg級	**第3位**	山本 愛佳	（110）	⇒ 県大会出場
78kg超級	**優　勝**	岡田 彩花	（212）	⇒ 県大会出場

■陸上競技部

第50回名古屋地区陸上競技選手権大会

女子ハンマー投げ（4.000kg）

第7位〈32m58〉　小林 香凛（213）

第8位〈30m73〉　丹羽 奏帆（104）

■男子サッカー部

2022年度私学祭体育大会　**準優勝**

令和4年度愛知県高等学校新人体育大会

名南支部予選会　**優　勝**　⇒　県大会出場

■女子バスケットボール部

第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会

一次トーナメント　**ブロック優勝**　⇒　県大会出場

令和4年度愛知県高等学校新人体育大会

名南支部予選会　**第7位**　⇒　県大会出場

■バドミントン部

令和4年度愛知県高等学校新人体育大会

名南知多支部予選会

個人戦女子シングル	**第3位**	廣瀬 結	（108）	⇒ 県大会出場
個人戦女子ダブルス	**第3位**	廣瀬 結 来 美咲	（108） （203）	⇒ 県大会出場
個人戦男子シングル	**ベスト16**	山本 羚牙	（203）	⇒ 県大会出場

令和4年度知多・名南バドミントン選手権大会

女子I部　**第2位**

■ラグビー部

令和4年度 第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会

愛知県大会　**第3位**

■女子蹴球部

第31回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

愛知県大会 兼 2022東横インひよこCUP　**第3位**

JFA第26回全日本U-18女子サッカー選手権大会

東海大会　**第3位**

■なぎなた競技

宇佐美 空虹（202）

令和4年度愛知県高等学校新人体育大会

女子個人試合　**第2位**

※兵庫県で行われる第18回全国高等学校なぎなた選抜大会への出場権獲得

■ボディボード

國武 寧々花（104）

2022年JPBAツアー年間ランキング

JUNIORクラス　**第1位**

■商業科

令和4年度税を考える高校生の作文

名古屋国税局長賞	河合 萠来	（213）
名古屋中村税務署長賞	山之城 麗奈	（212）

■国語科

第33回伊藤園お～いお茶審俳句大賞

佳作特別賞	石川 拓実	（209）
	坪井 菜々子	（314）

※佳作特別賞はWebサイトにも掲載されています。

佳 作　善久 愛菜（307）　田中 里歩　（313）

活躍している 生徒の紹介

ラグビー部

303 結城 遥斗（名古屋市立滝ノ水中学校出身）

僕が同朋高校に入学した理由は中学3年生の時、伊吹先生と出会い熱い思いを聞いて、この監督の下でラグビーをもっと学びたいと思ったからです。はじめのころは練習もきつくてつらいと思うこともあったけれど、花園出場という大きな目標のために頑張ってきました。結果は県大会3位で終わってしまいましたが、もう少しで決勝戦まで届きそうな戦いでした。終わってしまった時は花園を逃してしまった悔しさと、仲間との高校ラグビーが終わってしまう寂しさで気持ちを切り替えるのに少し時間がかかりました。しかし、この3年間コロナ禍で大会や合宿などいろいろな事が中止になり、思うようにラグビーができない時期もあったので、高校生活最後の大会を戦い切れたことに感謝の気持ちと達成感がありました。

これからも周りの人の支えがあってラグビーができることへの感謝の気持ちを忘れず、次は先生に繋いでいただいた希望大学で活躍することで恩返しができるように頑張っていきたいと思います。

305 福留 斗生（名古屋市立宝神中学校出身）

私は3年間の部活動を振り返って、いろいろなことを吸収し学べたと思います。中学とはまったく違うレベルの高校ラグビーで、最初の練習からとてもきつかったです。しかし先輩にアドバイスなどをもらい、だんだんラグビーがきついから楽しいに変わっていきました。

3年生になって私は東海選抜に選んでもらい、他県の選手から良い刺激をもらいました。伊吹先生が同朋高校に誘ってくれていなければ、僕はここまで成長することができませんでした。同朋高校に来ていなかったら、国体にも出れずにメンバーにも選んでもらえなかったと思います。本当に同朋高校に来てよかったです。

親が毎日弁当を作ってくれてここまで大きくなれたので、一番親に感謝しています。ラグビー部のメンバーとは家族よりも長く一緒にいて、仲間との思い出はこれからもずっと忘れられない思い出です。大学は全国トップレベルのチームに行くので、将来有名なプレイヤーになれるように頑張ります。

女子蹴球部

ゼロから

305 濱口 琴音（春日井市立知多中学校出身）

高校からサッカーを始め、ルールも分からず、基礎もできないところからのスタートでした。周りは経験者ばかりで、ついていくのに必死でした。上手くなるのか、試合に出られるのか、3年間やっていけるのか不安で、何でこんなところにいるんだろうと思うこともありました。また、私は人見知りで、なかなか馴染めず、人間関係が難しく感じ、悩んで辞めたいと考えた時もありました。今思えば、この時期を乗り越えたことが自分の成長に繋がったんだと思います。

私は体力がなくて走れないという課題があり、とにかく体力をつけようと練習後も家に帰ってから走りました。3年の夏の大会でフル出場をさせてもらい、PK戦も蹴りました。結果は止められて負けてしまい、今までで一番悔しい瞬間でしが、皆は私がPKを蹴ったことを賞賛してくれ、かけてくれた一つひとつの言葉を大切にしようと思いました。負けた自分を超えたいと思った選手権では持てる力を全て出し切りました。最後の瞬間まで一生懸命みんなと戦えたこと、いろんな苦難を乗り越えられたことはこの3年間の宝物です。人間的にも成長できたのは、仲間や先生、支えてくれた友達、家族のおかげだと思っています。私は今まで経験したことのない景色をみんなとたくさん見れたことを誇りに思います。